

報道機関 各位

青森県農林水産部構造政策課長
(公 印 省 略)

令和6年度地域計画の策定推進に向けたファシリテーション研修会の開催について

改正農業経営基盤強化促進法が令和5年4月1日に施行されたことに伴い、地域の話合いにより、農地ごとの将来の耕作者を落とし込んだ目標地図を含む地域農業経営基盤強化促進計画（地域計画）を市町村が策定することが法定化されました。

このため、県では、市町村や農業委員会事務局等の職員を対象とし、地域の話合い等を円滑に進めるためのスキルアップを図る標記研修会を下記により開催することとしましたので、取材して下さるようお願いいたします。

記

1 日時・場所

会場	日時	場所
青森会場	令和6年7月2日(火) 10時15分～16時00分	アピオあおもり 2階大研修室1 (青森市中央3丁目17-1)
弘前会場	令和6年7月3日(水) 10時15分～16時00分	弘前市総合学習センター学習情報館 2階大会 議室 (弘前市末広4丁目10-1)
十和田会場	令和6年7月4日(木) 10時15分～16時00分	青森県農業共済組合 南部支所 2階 大研修室 (十和田市大字三本木字里ノ沢1-47)

- 2 内 容 ①座学 100分 地域計画・目標地図作成の考え方・進め方のポイント等
②実技 180分 地域計画・目標地図作成に向けた集落座談会の進め方等

- 3 講 師 地方考夢員^{こうむいん}研究所 代表、(一社)全国農業会議所 専門相談員 さわはた よしお 澤畑 佳夫 氏

- 4 対象者 市町村職員（農政担当課、農業委員会事務局）、県関係職員（農業普及振興室等）、県農地中間管理機構職員（農地相談員）

- 5 主 催 一般社団法人青森県農業会議、青森県

報道機関提供資料	
担当課 担当者	農林水産部構造政策課 農地活用促進グループ GM 簗谷 陽悦
電話番号	直通：017-734-9462 内線：5053
報道監	農林水産部 次長 栗林 豊 内線：4967

令和6年度地域計画の策定推進に向けたファシリテーション研修会
～地域計画の策定と意思をカタチにできる座談会の開き方～ 開催要領

1 目的

農業委員会による出し手・受け手の意向把握や、市町村・農業委員会等による協議の場の運営に係るスキルアップを図るため、市町村や農業委員会事務局等の職員を対象とする研修会を開催する。

2 主催

一般社団法人青森県農業会議、青森県

3 講師

地方考夢員研究所 代表、(一社)全国農業会議所 専門相談員 澤畑 佳夫 氏

4 日時・場所

会場	日時	場所
青森会場	令和6年7月2日(火) 10時15分～16時00分	アピオあおもり 2階大研修室1 (青森市中央3丁目17-1)
弘前会場	令和6年7月3日(水) 10時15分～16時00分	弘前市総合学習センター学習情報館 2階 大会議室 (弘前市末広4丁目10-1)
十和田会場	令和6年7月4日(木) 10時15分～16時00分	青森県農業共済組合 南部支所 2階 大研修室 (十和田市大字三本木字里ノ沢1-47)

※定員(各会場48名:6人×8班)を超える申込みがあった場合、第2希望の会場への変更をお願いすることがあります。

5 内容

(1) 座学 100分 地域計画・目標地図作成の考え方・進め方のポイント等

(2) 実技 180分 地域計画・目標地図作成に向けた集落座談会の進め方等

※上記のほかオリエンテーション等あり。

6 対象者

市町村職員(農政担当課、農業委員会事務局)、県関係職員(農業普及振興室等)、
県農地中間管理機構職員(農地相談員)

7 その他

研修会当日は、発言しやすい雰囲気づくりのため、カジュアルな服装でお越しください。(例:ポロシャツ、Tシャツ、作業着など)

地域計画の策定と 思いをカタチにできる 「座談会」の開き方



講師提供

～座談会の出席者満足度90%の講師が語る～

「徹底的な話し合い」「十分な協議を経て」地域計画は作るようになってはいますが、期限までに完成させるためにはどう進めればよいのか、という相談が増えてきております。そこで、自ら地域座談会等に参加しながらバージョンアップに取り組んでいる講師が、策定後の推進の手法も含めて具体的に説明していきます。

裏面もご覧ください

	会場	期日	場所
1	青森会場	7/2(火)	アピオあおもり2階 大研修室1 (青森県青森市中央3丁目17-1)
2	弘前会場	7/3(水)	弘前市総合学習センター学習情報館2階 大会議室 (青森県弘前市末広4丁目10-1)
3	十和田会場	7/4(木)	青森県農業共済組合南部支所2階 大研修室 (青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-47)

3会場とも受付10:00～10:10 開催時間 10:15～16:00

- 対象者 市町村職員(農政担当課・農業委員会事務局)、県関係職員、県農地中間管理機構職員等 【48名程度/会場】
- 参加費 無料
- 参加申込方法 6月18日(火)までに、別紙によりお申し込みください。
- 当日の服装 発言しやすい雰囲気づくりのため、**カジュアルな服装**でお越しください。
(例:ポロシャツ、Tシャツ、作業着など)

※第2希望会場への変更をお願いする場合があります。

	時間	主な講座の内容	講師
1	100分 講義	【地域計画と未来を考える座談会の開き方】 ①地域計画策定の現状と課題 ②地域計画(将来像と目標地図作成)策定の考え方・進め方のポイント他	地方考夢員®研究所 代表
2	180分 実技	【日本型ファシリテーションの実践および活用法】 なぜ、付箋を活用した座談会は効果がでるのか ① 雰囲気づくり・進め方のポイント ② 自己紹介・アイスブレイクの仕方、参加者の心得 ③ 個人の考えを書く、個人の考えを聴き合う ④ グループとしてまとめる ⑤ グループ代表による発表 ⑥ 投票による合意形成 ⑦ 質疑応答 ⑧ まとめ ※ 進捗状況により内容が変更になる場合もあります	(一社)全国農業 会議所 専門相談員 澤畑 佳夫 氏

講師： 澤 畑 佳 夫 （さわはた よしお）



昭和33年2月生、元茨城県東海村農業委員会事務局長（平成28・29年度）。1年間の再任用職員も経験し、平成31年3月末に退職。事務局長時に全農地を対象とした5年後の農地利用意向調査やファシリテーションを活用した農業集落座談会等を企画・実施し、その結果を基に農地中間管理事業を活用した大幅な農地集積等を行った。その手法や考え方は、これからの農地集積・集約、遊休農地の発生防止、解消等の先進事例として全国から注視されている。現在、地域計画（目標地図を含む）の策定及び推進する専門家として、農業委員、農地利用最適化推進委員、女性農業委員、県・市町村職員等を対象に現場出身者ならではの目線を大切に講義や研修会の講師を務めている。その受講者はこれまでに、43都府県で約3万人を超えている。「農業を通じたまちづくり」「住民（子どもを含む）と行政の協働によるまちづくり」を提唱しながら、併せて人財育成コンサルタントとしても活動し、日々多忙な毎日を送っている。

現職：地方考夢員®研究所長 （一社）全国農業会議所専門相談員
総務省地域力創造アドバイザー （一社）ソトコト（ソーシャル&エコ・マガジン）流域生活研究所長
（一社）MFA（会議ファシリテーター普及協会）認定ファシリテーター

他県で受講した参加者の感想



- 自分の意見を言えた。皆が聞いてくれた。このようなやり方ならまた参加したい。主催者に、はじめて「お礼」を言いたい。研修内容であった。
- このやり方は、皆が笑顔で、より前向きな気持ちになるように思えた。
- これまで色々な計画（プラン）策定に関わってきたが、その後中々進展していない。その理由がはじめてわかった。
- 自治会役員・PTA・子ども会育成会として一生懸命頑張ってやっていたつもりだが、皆が付いてきてくれない（協力的でない）理由が理解できた。
- これまでの研修会ではよく寝ていた。はじめて真面目に最後までずっと聞いてしまった。時間の経過が早く感じられた。
- 今後の地域農業のあり方について、主観的に改めて捉えることができた。
- 普段寡黙な方が、自分の意見を話されていたのが印象的であった。
- 座談会等はなかなか意見の出にくい、かたい感じのイメージがあった。もっと意見のでやすい「雰囲気づくり」が重要であることが理解できた。
- ファシリテーションのやり方、有効性などが良くわかった。実際に推進する市役所の農政課、農業委員会事務局以外の職員にも積極的に受講してもらいたい。
- 参加者が決定事項に「納得」ができる会議手法が参考になった。
- 「合意形成とは何か」がはじめて理解できた。
- 実践されている講師の方のお話なので、その手法・ポイント・内容が目から鱗だった。とても楽しかった。特に「講師の失敗談」などは、自分でも今後活かせる内容だと思えた。

※ 令和2年3月に発刊されたブックレット ⇒

